

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 356

事務事業名	すわの森管理育成事業	
基本目標		活力に満ちた産業のまち
政策	040105	魅力ある農林水産業の振興
施策		林業の振興
関連施策		

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	農林水産部		
課名	農林整備課		
課長名	松崎 文彦	内線	267
担当者名	山口 力也	内線	254

事業類型	6	施設維持管理(補修)事業(任意)
個別計画	大村市森林整備計画	
重点事業		

会計	一般		
款	6	農林水産業費	
項	2	林業費	
目	2	林業振興費	
事業コード	130000	すわの森管理育成事業	

【PLAN(計画)】

対象(者)	すわの森(全体面積:16ha)		
誰(何)に対して事業を行うか			
意図 対象をどのような状態にしたいか	二酸化炭素吸収等の環境保全に寄与すると共に、市民に散策、レクリエーションの場や、快適な景観を提供する。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	生活環境保全林総合整備により保安林機能の復活や森林を介してのやすらぎの場としての機能を確保し、都市化の防御線として保全するための維持管理を行う。 芝生広場草刈(3000㎡)、自然林下刈り(6ha)、不要木伐採(3.5ha)、防火かん水池清掃(2箇所)、トイレと東屋の清掃。		
事業期間	平成 5 年度	～	平成 年度
実施方法	直営、委託		
根拠法令、要綱等			
国・県補助事業に係る本市単独施策			

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 芝生広場草刈	計画値	3,000	3,000	6,000	3,000	
		実績値	6,000	6,000	3,000		
	(実施面積/計画面積)×100	達成度 %	200.0%	200.0%	50.0%		
② 自然林下刈り	計画値	6	6	6	3.8		
	実績値	6	6	6			
	(実施面積/計画面積)×100	達成度 %	100.0%	100.0%	100.0%		
成果指標	① 年間利用者数	計画値	30,000	30,000	30,000	30,000	
		実績値	17,000	18,000	18,000		
	(年間利用者数/計画利用者数)×100	達成度 %	56.7%	60.0%	60.0%		
②	計画値						
	実績値						
	達成度 %						

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	1,948	1,153	1,911	1,586	1,805	1,805	1,805	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	1,948	1,153	1,911	1,586	1,805	1,805	1,805	
② 人件費(千円)	954	907	862	873	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.12	0.12	0.12	0.12	自然林下刈り、芝生広場草刈り、東屋及びトイレの清掃等	自然林下刈り、芝生広場草刈り、東屋及びトイレの清掃等	自然林下刈り、芝生広場草刈り、東屋及びトイレの清掃等	
時間外勤務(時間)			8					
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	2,902	2,060	2,773	2,459				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	トイレ周辺の清掃をシルバー人材センターに委託、すわの森全体の管理を森林組合に委託した。
事業が抱える問題・課題等	

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市民に散策、レクリエーションの場や快適な景観を提供するために、すわの森を維持管理する事は妥当であり必要である。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	公共の場であるすわの森の管理は市が行うのが妥当である。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	推定利用者はほぼ計画通りである。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市民が快適に過ごすための環境づくりの対策として、この施策の効果は高い。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	市民が安全に快適に使用するためには、これ以上のコストダウンは不可能である。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	不特定多数の人が森林をやすらぎの場として利用しているため、負担を課すことは困難である。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	市民が快適に過ごすための環境づくりの対策としての効果は高いので、現状維持とする。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。